



そこに座っているのは地球犬。地球研のマスコットキャラクターだよ。地球研がある上賀茂の伝統野菜「すぐき菜」と普通の犬が化学反応を起こして誕生したの。毎年世界各地を冒険していて、ゆるいながらもダークな一面を持つ、愛すべき存在よ。



ちきゅうけんリレー選書冊子  
ぼくたちを連れ出す  
気ままなコンパス



気になる言葉をここで解説していくよ。選書とは、たくさんの著作物のなかから、ある目的に沿って選んで作った書物のこと。この冊子は、リレーのように順番に本が紹介されているの。だからリレー選書なんだよ。

ちきゅうけんりレー選書冊子

ぼくたちを連れ出す  
気ままなコンパス

家の中で迷子

**1**

6ページから

気流の鳴る音

気流の鳴る音

真木悠介

**2**

8ページから

交通新聞社の文字の大きな時刻表

**3**

10ページから

暗号大全

暗号大全

原理とその世界

**4**

12ページから

トヒムシの住む森

トヒムシの住む森

土壌動物から見た森林生態系

**5**

14ページから

裸のサル

裸のサル

動物学的人間像

**6**

16ページから

みんないきもの

みんないきもの

阿部健

**7**

18ページから

い?の

かわいそうなぞう

かわいそうなぞう

**9**

24ページから

エンザロ村のかまど

エンザロ村のかまど

**10**

26ページから

比良山麓の伝統知・地域知

比良山麓の伝統知・地域知

**11**

28ページから

まばたきとはばたき

まばたきとはばたき

**12**

30ページから

緒方真子

緒方真子

難民支援の現場から

**13**

32ページから



## この冊子を手にとったあなたに

総合地球環境学研究所（地球研）は、その名の通り研究所です。研究をするところです。何の研究をしているかという、環境のことを研究しています。身のまわりのことから、地域のことなど、これからの地球を考えるために知っておきたい、人間の営みや自然とのかかわり方の過去、現在、未来について研究しています。アジアを主な舞台に、実際にその地を訪れて調査をしたり、実験をしたり、地域のことをよく知っている人たちからお話を聞いてまとめたり、いろいろな人たちとこれからの社会への道筋を考えたりしています。

たとえば、水は、私たちが生きていくうえで欠かすことのできないものです。その水はどこから来たのか？どんなものが混ざっている水なのか？その水を地域の人は何に使っているのか？川や湖の水の使い方によって、生き物の棲む所がどう変わるのか？限られた水を地域や違う産業のあいだでうまく使っていきにはどうすればよいのか？水害が起こりやすい地域、水が足りなくて困っている地域に生きる人々は、その水とどのように向き合ってきたのか？考えなければいけないこと、調べなければいけないことはたくさんあります。これら全てを一人で明らかにすることは、おそらくできません。一つの研究対象を共有しながら、いろいろな分野の研究者と、そして様々な立場の人たちと一緒に進めていくことになります。

この冊子では、紹介者が思い思いに、皆さんに手にとってもらいたい本を紹介しています。地球研の研究に関係がありそうなものもあれば、まったく関係のなさそうなものもあります。この本がいったい何の役に立つのだ、といぶかしく思う人もいるかもしれません。



ところが、しばしばおもしろいことが起こります。これまでに読んできた本や見聞きしてきた話は、ある日突然「アイデアの素」として、わたしたちの元に帰ってくることもあるのです。それが、思考の礎となって、人生を豊かにするばかりか、「実はこうなっているのではないか」ということが見えてくることがあります。新しい着想は、その分野の人が読んでなさそうな本や、経験してなさそうなことから得られるものではないかと思います。マンガ、雑誌、ブログ、何でもいい。自分が経験していない世界を見せてくれるものなら、自分が考えたことのない頭の使い方をしているものなら、それらはきっと糧となり、わたしたち自身を変えることになる。その引き出しは多い方がいい、ということです。

冊子の紹介者には、研究者ばかりでなく、別の職種の人もあります。紹介されている本たちは、見た目にも内容的にもばらばらです。そうでありながら、地球研という場所を共通の職場としている職員たちがリレーで紹介した13冊を通してみると、環境や社会、そこにある文化を考えるうえで、大事なことが各人各様に何となく見えてくるのではないか。そう期待を抱きつつ、ご紹介する順番にも工夫を凝らしました。何やらお正月の福袋のような、読み手の扱いに委ねる冊子です。うまいこと使って、皆さんの次のステップへの何らかの肥やしになれば、幸いです。

総合地球環境学研究所  
研究基盤国際センター  
熊澤 輝一



## ここは、地球研。

地球研では、ちょうがくさい 学問分野や職種を越えた「超学際研究」をおこなっています。その組み合わせは、いろんな可能性を見せてくれます。

そんな超学際研究って、みちび 思わぬところから、思わぬところへと、人を導いていくんですよ。

研究には、たくさんの知識が必要になります。  
その知識を得るには、たくさんの本が必要になります。  
本を読むことで、これまで何が明らかになっているのか、  
何が問題になっているのか、がだんだん分かってきます。

そう、本は道にすすむために方角を指し示してくれるコンパスのようなもの。

今回は、地球研で働く人たちが大切な本を一冊ずつ紹介しています。

おっ!さっそく地球犬が、本を見つけました。  
いっぱいの本に導かれて、地球犬はどんな探検をするのかな?

さあ!君も地球犬と一緒に、本に導かれて探検してみよう!



おっ、あんなところに本があるぞ? どれどれ……  
何が書いてあるんだろう?

まいご  
迷子の帰り道

それは、身体の泉から湧き出る  
無数のいのちの記憶と出会う旅



『家の中で迷子』  
2018年 新潮社 137pp.

著者：坂口 恭平

1978年、熊本県生まれ。

作家、建築家、音楽家、画家。

「僕は自宅にいるのに、帰巢本能によってどこかへ還りたいと願っている」

(坂口恭平『現実脱出論』より)



この本について

「家の中で迷子になった」。ふと思い出したのは、子どもの頃に訪れた地下街で迷子になったときのこと。そのとき訪れたお店で偶然に出会った白髪のおばちゃん。お店の試着室は森の中に続いていた。それはどこまでも歩く帰り道のはじまりだった。迷子の身体をめぐる水から、いのちの記憶があふれだす。身体の奥深くにある、海のなかへゆっくりと沈み、ゆらゆらと水面に浮かんでいくような不思議な読後感をあたえてくれます。



坂口恭平さんの本だね。「現実」っていうものに苦しめられているときの、その「現実」って何だろう？自分がいま生きている現実が何なのかを、丁寧にときほぐして説明してくれる本。可能性にあふれた現実を、君の感覚に寄り添って教えてくれるよ。

こんな本を子どもの頃の夏休みに読みたかった。

白髪のおばちゃんがごちそうしてくれた麦茶、海辺の老人と食べたスイカ、夕闇の泉に浮かぶ燈籠、海上に浮かぶ船の街。そんな場所を旅している気持ちになります。

みなさんは、子どもの頃の記憶を思い出すことができますか？  
では、生まれる前の記憶は？自分が体験したことのない記憶へ接続する回路が開かれる。そんな体験をさせてくれる本です。



おすすめ人 石橋 弘之

栄養循環プロジェクトの研究者。  
流域の上流から地域間の交流に向けた場づくりをする仕事をしています。

関心のあること

歩くこと。雨や風や土と地続きになりたいから。

子供の頃のおこがれ

学校の図書室を訪れると司書の先生にいつも、こわい本が読みたいたずねていた。探してくれた本を見て「もっとこわい本がいい！」と言ってひきさがらない子どもだった。こわい本に飽き足らなくなり、不思議な本を探し求めるようになった。そんな時にこの本を読んでいたかったと思います。



子どもの頃の夏休みに読みたい本  
なんだって！

君はどんな経験をしたことがある？  
どんな思い出があるかな？

じゅうじつ  
人の充実した生き方とは？  
わたしたちのなかに眠る、  
そぼく すてき  
素朴で素敵な感覚。

# 2



『気流の鳴る音  
—交響するコミュニケーション—』  
2003年(初版:1977年)  
ちくま学芸文庫 240pp.  
まき ゆうすけ  
著者:真木 悠介  
1937年生まれ。  
東京大学名誉教授/社会学者。  
人の生き方を社会学する研究者です。

### この本について

メキシコ・インディアンの呪術師ドン・ファンの生き方から、人の生き方やその生き方を充たす感覚を発掘している本です。現代科学を生きるわたしたちの知見は、あるひとつの世界の捉え方でしかありません。ひとつの見方だけで生きることが、人の生を欠乏させる、その呪縛を、比較社会学の手法から、解き放ってくれる本です。

小学生の頃、わたしは自分を取りまく世界を「言葉」ではなく「心と身体」<sup>からだ</sup>で感じて生きていました。この本は、心身が感じた<sup>しんしん</sup>ことの大切さや誠実さが、人の生を彩り豊かに充たす感覚と<sup>せいじつ</sup>して論じています。<sup>いろど</sup><sup>ゆた</sup><sup>み</sup>

小学生の君に、この本は難しいかも……。でも、この本に出てくる呪術師ドン・ファンの言葉は、子どもの君にこそ、じっくりくるものと思います。今、君が感じ生きることそのままに、それが大切であることを、<sup>した</sup>親しみを込めてこの本は伝えてくれます。

おすすめ人 <sup>おおたに</sup> <sup>みちたか</sup> 大谷 通高

情報基盤部門の技術補佐員。  
研究成果の収集、保管、管理をしています。

#### 関心のあること

「正しさ」をめぐる人の行動様式・ジェンダー研究・シリアスゲーム。

#### 子供の頃のおこがれ

異世界ファンタジーの世界にあこがれていました。



君を取りまく世界や、思い出はどうか？「言葉」「心と身体」のどっちで感じてると思う？言葉に幸せを感じていた人のところへ行ってみよう！



社会的・文化的につくられた性差のこと。「男らしさ」や「女らしさ」ってことだよ。この「らしさ」ってところがポイント。「男の子」や「女の子」に「ふわわい」とされる服装や振る舞い、考え方なんかをさす言葉だよ。なんでも押し付けるのはよくないね。

数字の羅列から


ひろがる世界

(蕎麦、あるいは笹団子)



3

『交通新聞社の  
文字の大きな時刻表』  
交通新聞社

この会社では紙の時刻表だけでなく、csv形式の時刻データ  
や駅構内図のデジタルデータ(鳥瞰図・平面図)も  
販売していて、いろんなアプリに  使われているみたいです。



この本について

実際に時刻表を使い始めたのは大学生の時でした。夏休みやお正月に、大学のある茨城県から、家族がいる富山県へ、青春18きっぷで鈍行列車を乗り継ぎ、どこを通過して帰るのか? お昼は松本で蕎麦を食べるか? はたまた越後湯沢でおやつに笹団子か? 時刻表の数字の羅列から、夢は広がるばかりなのでした。



まるで空を飛ぶ鳥の目から地上を見下ろしたような図のこと。地図の技法もしくは図法のひとつね。  
もの知りナス子も飛べるから、お手製の鳥瞰図、ひとつ描いてみましょうか?

かつじちゅうどく  
活字中毒だった小学生の頃、父の転勤で仮住まいだったわが家  
にはまともな本がなく、居間に散らばる取扱説明書・保護者  
向けお便り・郵便番号表などなど、文字と見れば手当たり次第  
に読みふけていました。意味がわかってわからなくても文字  
を追うことが幸せという、たぶんだれもが経験する子どもらしい  
豊かな時間でした。もしその頃のわたしに鉄道時刻表を渡し  
たら、空想の旅程で遊ぶ楽しい子どもになっていたと思います。

やました ひとみ  
おすすめ人 山下 瞳



IR室の技術補佐員。  
いろんな研究活動や成果を、数字を使って表現  
するためのあれこれが仕事。

関心のあること

どうやったらみんなの仕事にまつわる不幸せの  
総量と偏りが減るのか、おいしいホットケーキの  
作り方、残りの人生の時間をどう使うと楽しいか。

子供の頃のあこがれ

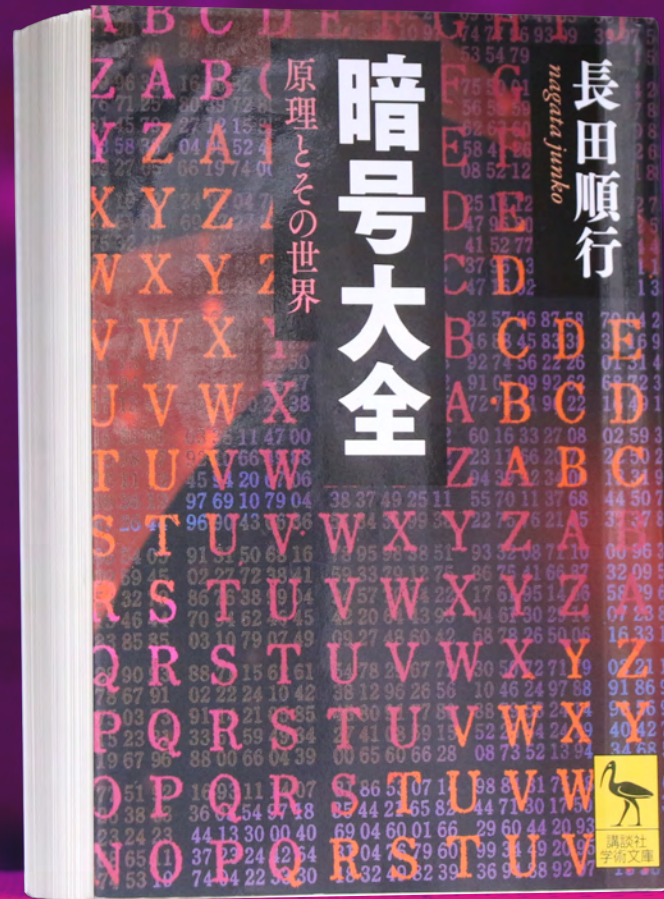
いつか自分だけの部屋をもったら、自分がほしい  
ものを自分でちくちく作って部屋中いっぱいにする  
こと。ぬいぐるみとか、カーテンとか、ちょうどいい  
小物入れなど。



本には物語があるけど、数字から  
物語を思い描くこともできるんだね!  
言葉には、いろんな種類があるの  
かも。おもしろい言葉はないかな?

4

ひみつ  
ちょっとの秘密、  
おくゆ  
奥行きのある暮らし



『暗号大全—原理とその世界』  
2017年 講談社学術文庫 443pp.

著者：長田 順行

作家、海上自衛官、暗号研究者。日本暗号協会会長（1986年～）。1955年防衛庁暗号専門機関に入り、暗号理論の研究及び解読に従事。1965年海上自衛隊暗号専門部隊に転じ、通信保全業務隊司令となり1983年1等海佐で退職した。

この本について

右の文は、平仮名の文字の形（「ふたつもじ」は漢字の「ニ」のことでこれに似た平仮名「こ」を意味していて、「牛の角もじ」は牛の角に似ている「い」を意味させるように）を伝え示すことによって、父上を恋しがっていることを伝えている。これを隠文といいます。他にもいろいろな暗号とその解読法がありますので、ぜひ試してみてください。

「ふたつもじ」  
「牛の角もじ」  
「い」  
「こ」  
↑ ↑ ↑ ↑  
ふたつもじ  
牛の角もじ  
い  
こ  
「徒然草」  
給ふと  
こひしく  
君をおぼ  
とぞ  
ゆがみ  
すのび  
牛の角も  
ふたつも  
じ



ひみつ  
秘密をほかの子には知られずに好きな子にだけ伝えたいとき、  
どうします？ そのための道具が暗号です。スマホのパスコード  
も暗号ですし、リアル脱出ゲームを解く鍵に使った人もいる  
かもしれません。人間は昔からあの手この手で暗号を作っ  
てきました。その成り立ちにはその国や時代の言葉がかかわっ  
ています。数字か文字がならんでいるだけの暗号も、その歴史  
をひも解けば、ちょっとちがって見えてくるかも。



おすすめ人 くまざわ てるかず  
熊澤 輝一

情報基盤部門の准教授。  
コンピュータのネットワークの仕事をしたり、地球環境学を理解するためのポータルサイトを作ったり、研究所の一般公開のお仕事をしたり、いろいろやっています。専門分野は、環境計画論と地域情報学で、最近滋賀県の高島市などで地域づくりのお手伝いをしています。

関心のあること

ポーッと生きてる。

子供の頃のあこがれ

図画工作を教えに来ていた『うる星やつら』(マンガ)が大好きな非常勤の先生を尊敬していました。



暗号！ 本当に言葉といっても数字や暗号などいろいろなんだね！  
言葉には、書く人と読む人がいるって実感できたね！



高橋留美子さんの有名な漫画だよ。アニメにもなっていて、たくさんの愉快な登場人物がでてきてハチャメチャな学園生活が描かれているの。泣ける話や楽しい話、不思議な話とか、一つの作品にいろいろな物語が詰まっているよ。坊やは教養のために読んでおいた方がいいわ。



人知れず生きる、森の中の小さな隣人  
を通して見た世界のなりたち

5



『トビムシの住む森』

① 『土壌動物から見た森林生態系』  
(生態学ライブラリー 9)

2002年 京都大学学術出版会 265pp.

著者：武田 博清

1976年度より2007年度まで京都大学農学研究科所属。以降2018年度まで同志社大学理工学部教授。現在は京都大学名誉教授。数多くの学位取得者を輩出するメンターである一方、話法の独特さと難解さにも定評がある。



この本について

トビムシを例に、世界に膨大な種類の生物が存在している理由と、その多様性が生態系(自然のシステム)で果たす機能を解きほぐす本です。通読すると、熱力学的に見て、人間の生存もこのシステムの下にあることを理解できるでしょう。それゆえ、本書を「彼らの」でなく我々の世界についての本として紹介した次第です。



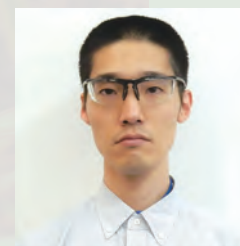
① ミミズやオケラのような、ふだん土の中で暮らしている生き物のこと。トビムシは、土の中にいるんだよ。



② 指導者のこと。ふと迷った時に、正しい所へと導いてくれる人のことだよ。わたくし「もの知りナス子」は、言葉の迷子さんのメンターと言えるね!

トビムシという体長2mmに満たない蟲を15年間、毎月採集して、「トビムシは特に何もしていないことを知った」と言っているのが、本の著者で、わたしの大学学部生のときの先生だった武田さんです。現在わたしが研究者の端くれとして存在するのは、武田さんという人に出遭ってしまったからこそです。その先生の代表作である本書は、ある意味わたしの人生にもっとも影響を与えた本と言えます。世間との対峙の仕方に悩むヒトへ。

おすすめ人 原口 岳



実践プログラム2所属の日本学術振興会特別研究員。

シカの糞を分析して、あれこれ推測しています。

関心のあること

人間が作り変えた環境のもとでの生き物の暮らし。

子供の頃のおこがれ

ファーブルのような暮らし。いがらしみきお作のマンガ「ぼのぼの」の世界。



トビムシから世界を解きほぐすとは!  
まるで暗号を解読するみたいだね。  
この本のトビムシみたいに、自分のことを知ったら、何がわかるのかな?

# 6



この本の題名は  
『裸のサル』。  
きみのことだよ。

『裸のサル—動物学的人間像』

1969年(原書:1967年)  
河出書房新社 249pp.

著者:デズモンド・モリス

1928年生まれ。イギリスの動物学者。愛と発達について思考を  
巡らす霊長類学者である、と松本は思っています。

翻訳:日高 敏隆



### この本について

わたしの人生を狂わせた本です。この本が投げかける、「人間とは何か」という問いの  
魅力にあてられて、わたしはチンパンジー研究者になりました。この本が書かれたのは  
1967年です。内容が古いდანて、ご心配は要りません。なぜなら、かつて今も人間は、  
「裸のサル」のままなのですから。



地球研の初代所長! 動物学者で、いろんな動物や虫のことを研究した人だよ。  
ちなみに、今の所長は3代目で安成哲三所長といいます。気象に詳しいよ。

「自分とは、いったい何者なのか」。青春の只中にある若者にと  
って、おそらく普遍的であろうこの問いは、人間の仕事の  
何割かがAIに取って代わられるといった言説が実しやかに  
語られるいま、自分という存在が脅かされているような、ある種  
の悲壮感を伴うものになっていないだろうか。まずは自分を  
文字通り見つめ直して欲しい。鏡に映る自分が、なぜ裸の身体  
を備えているか。その理由を、この本は熱く語っている。



おすすめ人 松本 卓也



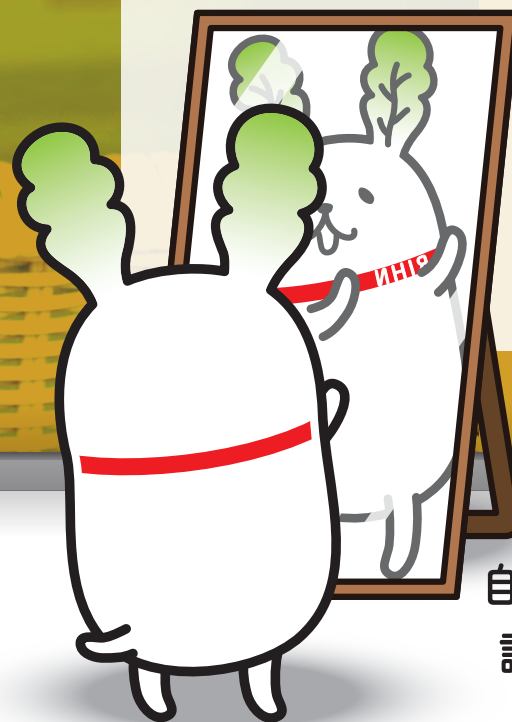
計測・分析部門所属の日本学術振興会特別研究員。  
野生チンパンジーの観察・記録・報告をしています。

#### 関心のあること

人類進化の道すじ、わたしが感じるこの愛とは何か。

#### 子供の頃のあこがれ

テレビゲームばかりしている子どもでしたが、  
夏休みに祖父母の家の近くの海で泳ぎまわることが好きだったからか、小学校の卒業文集に、将来  
の夢は「生物学者」と書いていました。



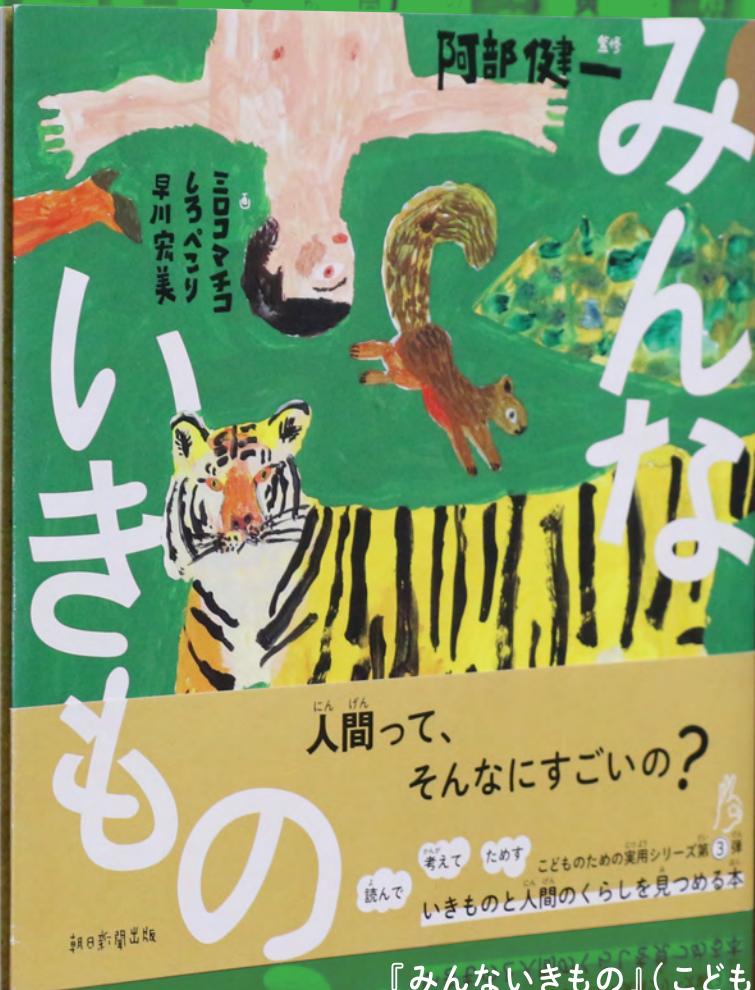
自分ってなんだろう?

読んでいる君は人間だよな? それ  
ともおサルさん? ぼくは犬なのかな?  
すぐき菜なのかな?



アイじゃなくて、これはエーアイって読むの。Artificial Intelligenceの略語。日本語だと人工知能のことだね。人に代わって、  
いろんな計算をしてくれたり、情報を処理してくれるコンピューター技術のことなの。天才ナス子も負けずわ。

「いきもの」だって、人間だ!



『みんないきもの』(こどものための実用シリーズ)

2018年 朝日新聞出版 160pp.



監修者: 阿部 健一

1958年生まれ。総合地球環境学研究所教授。

この本について

監修というのは初めて。いいライターさんと絵描きさんにめぐまれて、時間はかかったけど楽しい作業だった。自分のかかった本を推薦するのは恥ずかしいが、読んでみてほしい。



1 本に書かれた内容に間違いがないか監督したり修正したりする人のこと。その道のプロや専門家じゃないとなれないね。



2 タバコに火をつけるために使われるやつじゃないよ。「writeする人や物」のことで、文章を書く人や物のこと。タイプライターとかも人じゃないけど、その名の通りライターだよ!

地球研初代所長の日高さんは、ドキッとする言葉をつぶやくことがあった。たとえば「『生物多様性』って、よくわかんないよね」とか「『持続可能な開発』なんて不可能だと思う」とか。一度先生は思わず「動物だって人間じゃないか!」と声をあげられた。普通だったら「人間だって動物だ」だけだね。  
この言葉をとらえて、生きものの「生活」の側面(たとえば「学ぶ」とか「家族」とは何か)を紹介することで、人間の生き方を考えることになれば、と思ってつくったのがこの本です。



おすすめ人 阿部 健一

コミュニケーション部門の教授。

地球研が持っている知見を分かりやすく伝える方法を考えたり、ほかの知見と掛け合わせて新しい知恵や価値を発見したりしています。

関心のあること 料理。

子供の頃のおこがれ

普通の昆虫少年がそうであるように、生物学者になるのが夢だった。ある意味、夢はかなったが、生物と同じように「人間」もおもしろいと思うようになった。学生時代に、日高先生とボルネオの熱帯林に行った頃からかもしれない。



動物も人間? ……なるほど、いろんな生き物も僕たちと同じように生活して悩んで生きてるね。生き物を知ったら、自分のことも分かるのかな? そうだ! いろんなものを比べてみよう!

本から本へ、地球犬は自分のなかに湧き出た<sup>わ</sup>関<sup>かん</sup>心<sup>しん</sup>から、  
本と本を自由、気ままに渡り歩いていきましたね。

研究も同じです。

いろんな本を読んで、  
あたらしく湧き出た問いから、  
本から本へと渡り歩いていきます。



おっ!地球犬が次の本を見つけたみたいですね。

地球犬は本を読んで、たくさんを知ったみたい  
だけど、つぎはどんな本を読んでいくんだらう?

ん?どうやらいろんなことを比べながら、本を読んでいく  
ようです。

さあ!君も地球犬と一緒に、やってみよう!

しょくたく  
食卓の「食べ物」が、  
ホネを見ると  
「生き物」  
に見えてくる。

『食べて始まる  
食卓のホネ探検  
ゲッチョ先生の  
ホネコレクション』  
2014年 少年写真新聞社 63pp.

もりくちみつる  
著者：盛口 満

1962年生まれ。沖縄大学学長。

「ゲッチョ先生」のニックネームで、生物・自然を題材とした  
子ども向け著書多数。イラストレーターとしてもプロ。

① 博覧強記すぎて、もはやこの方をどう形容してよいかわから 少年写真新聞社

ない。ホネだけでなく植物も昆虫もナマコもすべてが題材。

海も山も川も里も、すべてが調査フィールド。



フライドチキンを食べたあと、残った骨がニワトリの体のどの  
部分か考えたことはありますか？チキンの骨をならべてみたら、  
恐竜の骨とそっくりなことに、きっと驚くはず。

わたしは動物考古学が専門で、遺跡出土の動物や魚の骨から、  
縄文人の食生活を復元していました。この本では、身近な食べ  
ものを骨にすることで、本来の生物としての姿が見えてくる  
楽しさを味わうことができます。骨の標本づくりに、実際に挑戦  
するのもオススメ。

おすすめ人 **真貝 理香**



FEASTプロジェクトの研究者。  
持続可能な食と農をめざした調査や研究をして  
います。

関心のあること

伝統的なニホンミツバチの養蜂をめぐる人と  
「野生」の関わり、「自然知」。

子供の頃のおこがれ

天文学者のカール・セーガンと結婚すること。  
宇宙から生物の進化まで、難しそうなことを、  
楽しくしゃべってくれたから。

この本について

ゲッチョ先生の本はどれも、視点がおもしろい。ネコジャラシはアワ（雑穀）の原種だから  
と、生徒とポップコーン作りに挑戦したりする。この本も、魚の顎の骨の形が食べ物によって  
違うことや、野生のイノシシと家畜のブタの骨の比較など、常に「視点」がある。しかも、  
ああ、超マニアックな魚の耳石や咽頭歯のページまである。ゲッチョ先生、やはりタダもの  
ではない！

① 「博覧」と「強記」の二語からなる四字熟語だよ。「博覧」は書物をよく読み、博識であること。「強記」は記憶がよく物事を知っていること。  
つまり、豊かな知識を身につけていることを意味するの。あれ？これって、もの知リナス子のことかしら？



お肉屋さんで鶏骨は簡単に手に入る  
よ。おいしいスープも作れて、骨で遊べて  
しまう。縄文人は、何を食べていたの  
かな？魚？けもの？鳥？他には？  
昔と今の生活はどうちがう？

# ノンフィクション絵本が 伝えたものと 伝えなかったもの

9



『かわいそうなぞう』  
1970年 金の星社 32pp.  
著者：土家 由岐雄  
1904年-1999年。  
日本の児童文学作家。  
イラスト：武部 本一郎  
1914年-1980年。  
イラストレーターとしては唯一の星雲賞特別賞受賞。

戦争は古来より、耕作地、天然資源、時には人命を奪うために  
行われ、その結果、多くの貴重な文明や生命が失われてきました。  
なかでも無垢な動物の命を奪うことは戦争がもたらす悲劇の  
最たるもので、平和な国際社会への歩みを進めることの大切さ  
を伝える教材として、かつては小学2年生の教科書に採用され  
ていました。わたしが10才の子どもたちにこの本を薦めるのは、  
あらためて読み直し、隠された真実を自分で調査したり、戦争  
がもたらす影響について真剣に考えるきっかけを与えてくれると  
考えるからです。

おすすめ人 若松 永憲



IR室の特任助教。  
研究力評価・分析、研究評価指標の開発と調査  
をしています。  
● 関心のあること  
組織の持続的な成功のためのマネジメント。  
● 子供の頃のアコガレ  
航空機のパイロットになりたかったけど、近視に  
なって断念しました。



## この本について

この物語では人命保護のために犠牲となった動物たちの悲劇をとおして、戦争の恐ろしさと愚かさを私たちに伝えてくれます。ですが、この本にはぞうが殺された本当の理由は書かれていません。在りし日の楽しい園内の風景、やせ細っていくぞうの姿、飼育員の双眸ににじむ涙は、本文とともに脳内統合され、GoogleのAR技術などなくたって圧倒的な臨場感を伴って目の前に浮かび上がってきます。



1 拡張現実のこと。ポケモンGoみたいに現実の情報を強化したり増強したりする技術のことだよ。ARは、Augmented Realityの略。



昔読んだ本を読み直すと新発見があるかも！今の君と昔の君、同じ本を読んで、どう思ったかな？  
変わった自分、変わってない自分を体験してみよう！



こみんぐ ①

### 日本の古民具が

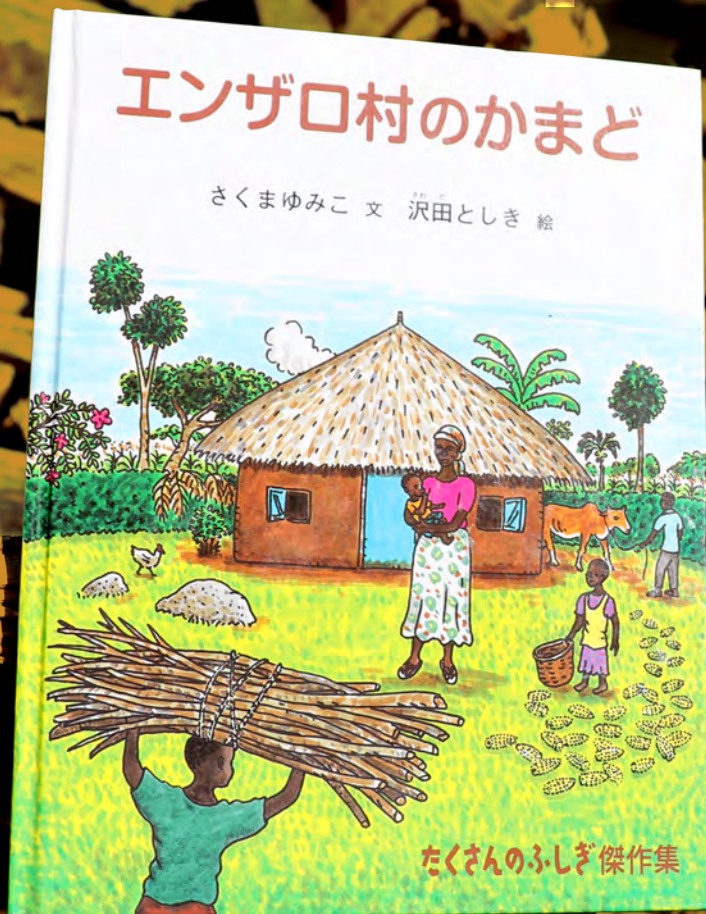
アフリカ・ケニアで  
大活躍。

日常の大切なことを  
気づかせてくれる。

『エンザロ村のかまど』  
(たくさんのふしぎ傑作集)  
2004年 福音館書店 40pp.

著者：さくま ゆみこ  
東京生まれ。出版社勤務を経て、  
現在はフリーの翻訳家。「アフリカ  
子どもの本プロジェクト」代表。

絵：沢田 としき  
1959年-2010年。青森生まれ。  
アフリカや中南米の音楽が好き。  
「アフリカ子どもの本プロジェクト」  
のメンバーとして、2008年ケニア  
シャンダ小学校図書館づくりに  
かかる。



わたしがこの本と出会ったのは、著者の講演会のことでした。  
初めての人にもわかりやすく、ケニアの地形や暮らしぶりが細かく  
描写され、ページをめくるたびに、その場にいるみたい不思議  
な気持ちにさせてくれます。

小学校3年生の現地での1日の生活の流れが描かれ、それを  
自分たちと比べいろいろ思うことでしょう。子ども達の命を守る  
為、遠いケニアで活動してきた主人公のやさしさやたくましさ  
に触れて、近い将来の自身の生き方の参考にももらえる本です。

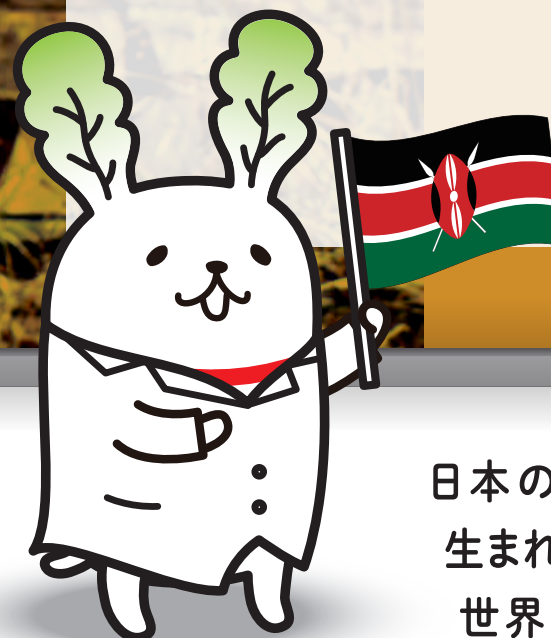
おすすめ人 堀内 麻里



警備室の案内係。  
地球研の受付・案内・館内放送などを行っています。

関心のあること  
地域の小学校で朝の読み聞かせボランティアを  
10年間継続中。地域のコーラスグループに所属。

子供の頃のおこがれ  
小さな頃から本が大好きで、特に絵本に描かれて  
いる外国の町並みや風景を見たり、自分なりに  
想像するのが楽しみでした。いつか大人になれば  
行ってみたいとおこがれていました。



#### この本について

日本から遠くはなれたアフリカ大陸・ケニア・エンザロ村のお話です。絵本では、村の生活の様子、いきいきとかわいい絵で描かれ、エンザロ村にいるようなわくわく楽しい気持ちにさせてくれます。日本人女性の岸田袈裟さんが20年間ケニアで暮らし、みんなが健康に暮らせるように、日本の古民具を思い出してエンザルジコ(かまど)、パティパティ(ぞうり)を作り伝え広めました。今では、ケガや病気をする人が少なくなったそうです。

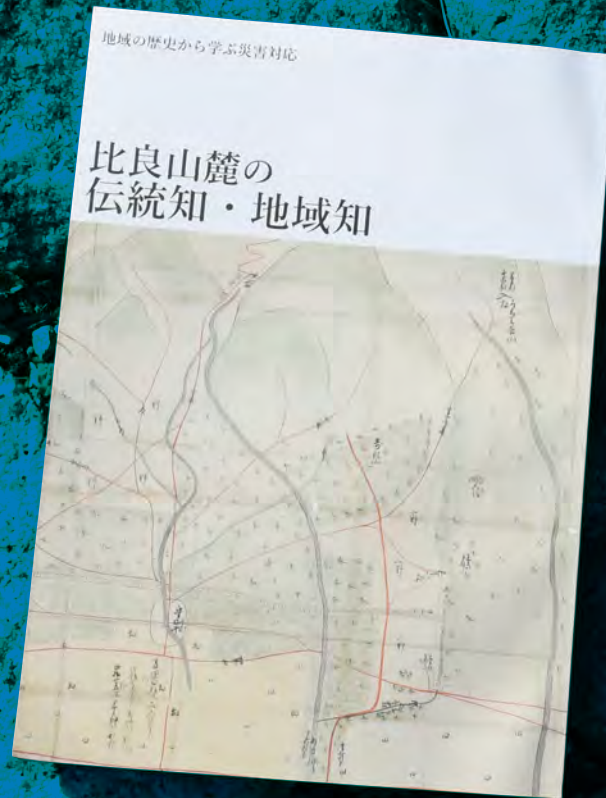


日常生活の中で必要とされてつくり、長い間、使われてきた道具のこと。  
暮らしを良くするための知恵が詰まった道具だよ。

日本の子どもとケニアの子ども達。  
生まれたところが違えば、身の回りの  
世界も違うよね。君の周りにはどんな  
世界？ 比べてみるといろんなことが  
分かってくるね！

人々は長い歴史の中で、  
どうやって自然の恵みや災いと  
付き合ってきたのだろうか？

11



『比良山麓の伝統知・地域知』  
(地域の歴史から学ぶ災害対応)  
2019年 北斗プリント社 80pp.



発行元: Eco-DRR プロジェクト

伝統知・地域知サブグループ。世代を超えて受け継がれてきた  
伝統知・地域知(知識・知恵)や伝統技術をEco-DRRの視線から  
記録、分析しています。

#### この本について

地球研Eco-DRRプロジェクト研究調査地である比良山麓の地形  
や文化、歴史資料からわかる暮らしを紹介しています。地域の人が  
いかに自然の恵みを利用しながら自然災害にどのように対処し、  
付き合ってきたかを、振り返ってみるきっかけになればと思って  
います。



Ecosystem-based Disaster Risk Reductionの略。自然がもつ機能を使って、災害を防いだり減らしたりする方法のこと。  
例えば、山にたくさん生えている木は、土砂崩れを防いでくれたりしている。災害が多い日本には重要な考え方だね。

この本は中学生からでも読んでもらえるように、わたしが初めて  
デザインした本です。滋賀県の比良山麓の伝統に注目し「自然  
の恵みと災いに向き合う地域の知恵と技術」を紹介しています。  
わたしが小学生の頃、地域の歴史について学んだのを覚えて  
います。しかし、中学生からは学ぶ機会は減りました。この本  
をきっかけに自分の住んでいる地域はどんな伝統、どんな自然  
災害と向き合ってきたのか、もう一度振り返ってみませんか？



おすすめ人 **島内 梨佐**

Eco-DRRプロジェクトの研究推進員。  
Eco-DRRプロジェクトに関わるデザイン、編集、  
SNS管理などを行っています。

関心のあること

別々の人が同じものを見た時の視点の違い、  
そこから生まれる考え方の違い。

子供の頃のあこがれ

絵描きさん。

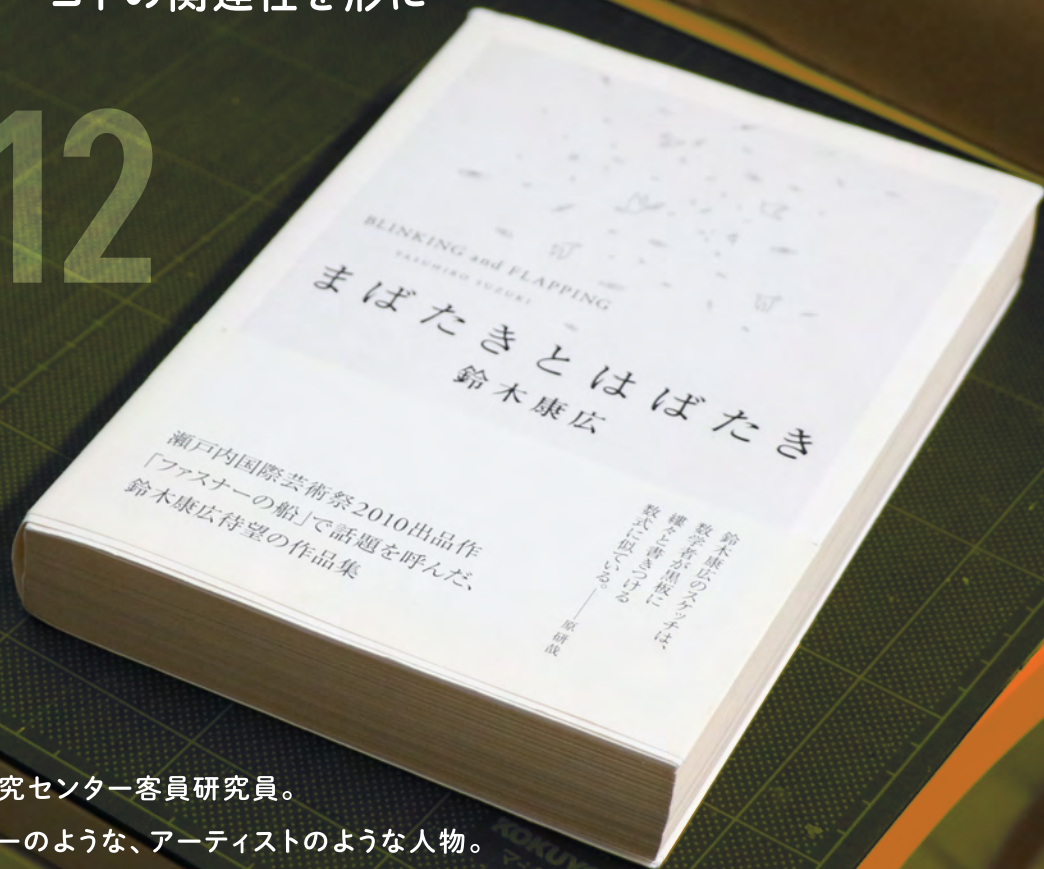


君の周りの世界も、君が生まれる前  
からそこにあったんだよ！君の住んで  
いるところには、昔の人の知恵や  
想いが隠れているはず。  
すぐそばの世界を探索してみよう！



すぐそばにある  
モノ・コトの関連性を形に

12



『まばたきとはばたき』

2011年 青幻舎  
320pp.

著者：鈴木 康広

1979年生まれ。

武蔵野美術大学准教授、

東京大学先端科学技術研究センター客員研究員。

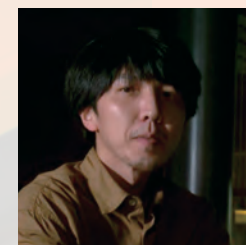
研究者のような、デザイナーのような、アーティストのような人物。

中学に入ると選択授業があり、美術を選択しました。ただ見て描く、模写やデッサンに満足していました。

美大生になったとき、まったく作品を作れませんでした。作品という存在に惑わされて、考え込んで手を止めてしまいました。

今思えば、ただおもしろいアイデアを形にして、作品だなんて忘れて、楽しめば良かっただけだと思っています。人に迷惑をかけず、自分を喜ばせる物作りを続ければ、誰もが作り手になれると思っています。

おすすめ人 寺本 瞬



広報室の特任専門職員。

チラシを作ったり、写真や映像の撮影・編集をしています。

関心のあること

(育成) ボードゲームの作成。ボードゲームはデジタルの知識がなくても、作れるものだという驚きがありました。

子供の頃のおこがれ

4足歩行のモンスター。現実でもファンタジーの世界でも、4足歩行のパートナーや分身がいたらと思っています。



この本について

鈴木康広さんの作品が45点載っています。

作品の写真はもちろんのこと、制作過程がうかがえるドローイングや、短い文書で作者の言葉に触られます。「ファスナーの船」や「りんごのけん玉」など、身近な体験を伴う作品だからこそ、「自分も自分も」と作る意欲が湧いてきます。



自分の考えを素直に絵に描いていくこと。シャツ!シャツ!って描いてイメージを形にしたり、描きたいものを描いていく。天才画伯ナス子の実力をお見せしましょうか?ふふふ。

周りから何か見つけられたかな?  
いろんなことを比べてみると、いろんなことに気がついて、アイデアやひらめきがポコポコ湧いてくるよ。  
思いついたこと、形にしてみよう!

いのちを  
大切にするためには、  
きびしさも必要

# 13

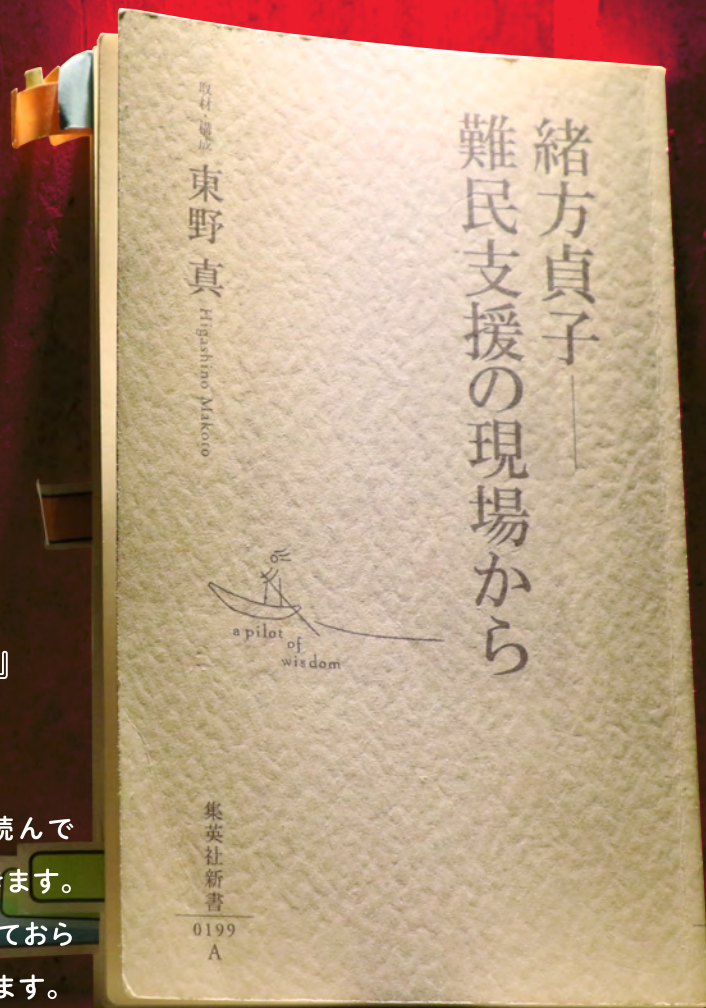


『緒方貞子—難民支援の現場から』

2003年 集英社新書 224pp.

著者：東野 真

1965年生まれ。NHK勤務。文章を読んでいると、その場の光景が目に見えてきます。長年、テレビ番組のディレクターを務めておられた経験が本に生きているように思います。



この本を読んで、自分にも何かできることがあるんじゃないかと考えました。難民問題だけを扱うラジオ番組を作るようになり、いろいろな人と出会うなかで人生が変わりました。

中学生や高校生のときに読む本は、その後の人生を大きく左右すると思います。最も大変な状況にある、難民という立場にある人たちの〈いのち〉を守るため、緒方さんが下した厳しい決断に触れてほしい。そして、一人ひとりの人生をよりよいものにしてほしいです。

おすすめ人 **宗田 勝也**



コミュニケーション部門の研究者。  
世代と世代をつなぐ環境教育のあり方を考えています。

関心のあること

社会的な課題に対する無関心について。

子供の頃のあこがれ

喜劇役者。

### この本について

難民を助けるためには、いろいろな人がかかわります。いろいろな人がかかわると、時には異なる考えが衝突します。そんなとき、緒方さんはあるものを重視します。それは「現場」の状況です。難民が生きる「現場」から、解決策を考えようとした緒方さんの思想と実践が本書に刻まれています。



国際連合っていう組織で働いていた時、世界各地の争いのあった所に行って、とってもたくさんの方を助けた女性。2019年10月に亡くなってしまったの…。惜しい人を亡くしちゃったね…。



迫害や紛争などによって自分の住んでいる所にいらなくなって、無理やり移動させられたりした人たちのこと。国からの保護をうけられなくて、とっても苦しい状況のなかで、大変な思いをしている人たちなんだよ…。難民問題はまさしく難問だ。



何か行動するのって、いろんな人との出会いがあるんだね。これからどんな本や人に出会うんだろう？  
どんな人生を歩んで、どんな世界を生きるんだろう？わくわくするね！



いろんな本や人との出会いが、  
君の世界を広げてくれる。



さあて、<sup>ちょう がく さい</sup>ぼかあそろそろ超学際研究に  
<sup>はげ</sup>励むとするかあ。

またぼくと一緒に探検しようね!

## 読んだ本をチェックしてみよう!

- 1. 『家の中で迷子』
- 2. 『気流の鳴る音-交響するコミュニケーション』
- 3. 『交通新聞社の文字の大きな時刻表』
- 4. 『暗号大全-原理とその世界』
- 5. 『トビムシの住む森-土壌動物から見た森林生態系』
- 6. 『裸のサル-動物学的人間像』
- 7. 『みんないきもの』
- 8. 『食べて始まる食卓のホネ探検 ゲッチョ先生のホネコレクション』
- 9. 『かわいそうなぞう』
- 10. 『エンザロ村のかまど』
- 11. 『比良山麓の伝統知・地域知』
- 12. 『まばたきとはばたき』
- 13. 『緒方貞子-難民支援の現場から』



## 本を読むことは、「とっておきの方法」

この冊子は、2019年の夏に開催された、地球研の毎年の恒例行事となっている『地球研オープンハウス』の企画『10才の君へ』をもとに作られています。この企画では、地球研で働いている人たちが、自分の好きな本を紹介しました（その様子は右ページ）。企画当日までに22人の所員が36冊の本を寄せてくれて、それを紹介した企画です。そのなかの13冊がこの冊子で改めて紹介されています。

この冊子を作りはじめた当初、地球研で働く人がどんな人たちで、どんな本をどんなふうに見ているのかを伝えるためのものとして、この冊子を作っていました。

しかしながら、冊子を作っていくさなかに、地球犬のむじゃ気な好奇心と探究心にあてられてか、「本の使い方」をテーマに、本から本へとつないでいくかたちで物語を編みあげました。

本を読むことは、書き手が書いたことをそのまま受け入れ、従うことではありません。その本で書かれていることを読んで、そこに書かれていないことを自分で考えることでもあります。それは本を使うことの第一歩です。

この冊子で13冊を旅した地球犬は、本に書かれていたことをキッカケに、自分で問いや関心を広げていって、さいごには行動に思いを馳せます。

そのようにして研究が、実験が、学問が、そして（いささか壮大ではありますが）人の暮らしや営みまでもが、何千年にもわたって本を読み使うことで支え続けてきました。

この冊子を手にとった君にとって、「本を読む」ということが、君の人生を支え豊かにする「とっておきの方法」になることを願っています。

地球研オープンハウスの企画から、この冊子を作るまでに、地球研でたくさんの人の力を借りることになりました。この企画に参加して、紹介本を寄せてくださった皆さんはもちろんのこと、企画の準備では、ピヴォーネ純子さん、和出伸一さん、また冊子をつくる段階では、王智弘さん、宗田勝也さん、寺田匡宏さん、山下瞳さん、若松永憲さんにお世話になりました。この場を借りて、感謝を伝えさせていただきます。ありがとうございました。

総合地球環境学研究所  
研究基盤国際センター  
大谷 通高



第9回 地球研オープンハウス  
10才の君へ  
本から見つける新しい世界



地球研オープンハウスは、2011年から続く、夏の地球研一般公開イベントのこと。「10才の君へ」企画では、「10才の頃に読んでいたら」という切り口で、自分の世界を拡げてくれた1冊を「魂を込めて」紹介したよ。来年のオープンハウスも楽しみだね!

『ちきゅうけんりレー選書冊子

ぼくたちを連れ出す 気ままなコンパス』

2020年3月発行

編集：地球研オープンハウス

「10才の君へ 本から見つける新しい世界(ビブリオバトル)」企画

冊子編集委員会

石橋・大谷・熊澤・真貝・原口・地球研広報室

発行：総合地球環境学研究所 広報室

〒603-8047 京都市北区上賀茂本山457番地4

Tel. 075-707-2100(代表) Fax.075-707-2106(代表)

<https://www.chikyu.ac.jp/>

ISBN 978-4-906888-74-0